



Doshisha University Academic Repository

同志社大学学術リポジトリ

田園グロースターシャーの問題と民間セクターの役割：英国地域福祉講演会

著者	井岡 勉
雑誌名	評論・社会科学
号	60
ページ	178-194
発行年	1999-09-25
権利	同志社大学人文学会
URL	http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000002149

〔資料〕

英国地域福祉講演会

田園グロースターシャヤーの問題と民間セクターの役割

講師：グロースターシャヤー田園地域協議会

事務局長 ステファン・ライト氏

翻訳：井 岡 勉

日時：一九九九年二月三日

場所：同志社大学今出川キャンパス

県議会の議長からのご挨拶もお伝えします。

はじめに

尊敬する同僚の皆さん、淑女紳士の皆さん、そして敬愛する友人にして同僚の井岡勉教授、彼とは十四年来の知り合いで、私は彼との心温まる親密な専門職関係を常に楽しんで来ました。今日皆さんにお話しできることを大変光栄に思います。

私は最初に私のグロースターシャヤー田園地域協議会の同僚たちから心からのご挨拶をお伝えしておきます。井岡教授は以前からその多くの同僚をご存じです。そしてグロースターシャヤーにおける私たちの大学とステファン・オウエン教授、マルコム・モウズリー教授からも皆さんによるしくということでした。

I 田園イングランドを理解するために

1 田園地域問題の歴史的背景

田園イングランドを理解するためには、私の国の歴史について少し理解する必要があります。なぜなら、真つ先にイングランドの私たち一人一人にとって、土地への愛着、土地愛があり、心では我々は皆農民なんだと信じるところです。

一九世紀後半、我々は二つの主な革命を経験しました。それは必ずしも平和なものではありませんでした。農業革命と産業革命ですが、両者共に私たちの社会に衝撃を与え続けて来ました。特

に産業革命は人口の大量移動の方法を齎しました。最初は鉄道、第二に二〇世紀の半ばには自動車の普及でした。この二つの要素はそれ自身より人口減少を、そして近年には他のいかなる単一要素にも増して人口増を齎しました。鉄道は人口減少を促進しましたが、一九五〇年以來、自動車は町から田園地域へのＵターンの動きを促進しました。政府が特別委員会、田園地域が直面している諸問題と取り組む「田園開発委員会」(RDC)を創設したのは、二〇世紀初期のそうした状況の深刻さが背景にありました。

これが設置されたのは一九〇八年でした。そして九〇年後の今、RDCは解体されつつあり、今年四月一日にはその機能は新たな政府機関、「田園地方機関」(CA)と新たな「地方圏域開発諸機関」(RDA)へと分割されます。間もなくその受け皿が多くなります。

2 中央・地方政府機構とその変化

皆さんには連合王国の政府機構と今生じつつある変化について少し知って頂きたいです。

一昨年、私たちは下院議員を選出しました。下院とは別に上院、貴族院があります。下院には七〇〇名余りの定員があり、連合王国のイングランド、スコットランド、ウェールズ及び北アイルランドの小選挙区有権者から選挙されます。

貴族院は任命構成員、即ち国家への功勞に対し、首相の助言により女王から叙勲を受けた人たちの混合体です。この人たちは生

涯任命議員です。加えて今まさに改革を要求する実際の論議が行われています。つまり貴族院の議席権を持つ無数の世襲貴族がいるのです。もともと、多くの彼らはそれを行使していません。私たちは三つの主要政党からなる政党政治制度を有しています。即ち労働党(近年中央政府を形成)、保守党及び自由民主党です。このほか少数諸政党もあり、主要政党と様々に連合を組んでいます。同じことは貴族院にも当てはまります。もともと、こ

こには強力な第四勢力、政党政治的忠誠を持たない中立議員グループが存在します。彼らは無所属です。地方レベルには県(カウンティ)、基礎地方自治体(デストリクト)、及び末端地域では教区(パリッシュ)及びタウンがあります。一九九六年以來、県と基礎地方自治体の結合体、「単一地方当局」(ユニタリー・オーソリティー)が設置されました。これらは前の保守党とその政府によって持ち込まれた地方政府委員会の検討結果から創設されました。

制度の水面下には中央及び地方政府の間に深い不信感があります。特にそれぞれの行政吏員の間にです。最近の政府関係の主な推進方向は、地方政府の支出を制限しようとする中央政府の決定いかんにかかっています。そしてこの目的のため、中央政府は財政的手段を用いるだけでなく、(国家歳入から地方政府への中央補助金の統制を通じて、基準支出評価と呼ぶ仕組みを通じて)サービスを直接に供給する権限を地方政府から取り上げる一連の議会法制によっても規制を加えています。すべてこれらの手段は

「お金の価値」という旗のもとに実施されてきました。そしてこれらは住宅対策、社会サービス・ケア対策、特に高齢者対象の等の問題を含んでいます。

一九七九年から一九九七年までの保守党政権のもとで、生じた変化は巨大なもので、地方政府をサービス供給主体（プロバイダー）からサービス助力者（エネーブラー）へ、その全体文化を改変するものでした。多くの人たちにとっては、これらの動向の背景にある哲学は歓迎すべきものでした。なぜならそれはサービス供給を住民により近く方向づけるに違いないとの理由からでした。けれども、最優先の強調点は金の節約にあつたので、結果は大抵供給の削減という、一層単純な結果となりました。

私は少し後で地方政府のことに戻りたいと思います。とくに教区とタウンについて後にもう少し説明します。

II 民間セクター・チャリティと公私関係

3 民間セクターとチャリティ

ところで、民間セクターに関して、英国ではボランティアズムの長くて高貴な歴史があります。中には「高貴な身分の義務」(No. these Oblig)の原則に基づくものもあります。言い換えるなら、支配階級である貴族が彼らの労働者のために恵みを与えるというものです。このような状況のもとでは対応は様々です。親切に扱う貴族の場合もあれば、貪欲で厳しく無慈悲な貴族もいます。そして一九世紀後半になると、この考え方は偉大な産業家へ

移りました。彼らの中には抑圧的で労働者の間に困難を引き起こした者もいました。そのことから労働組合運動の核ができたのです。他の産業家たちはまこと慈善家で、その中から主な慈善トラストが成長しました。チャリティという考え方は古い時代からあり、基本的には四つの礎石に基づいています。

教育の進歩

宗教の推進

貧困の救済

患者の癒し

多くの旧い大学や私立学校は教育チャリティとして設立されましたし、今も設立されています。多くの病院は一九四八年の国民保健サービスの導入までは患者治療のためのチャリティでしたし、興味深いことに再びチャリティとなっています。

私の所属する組織、グロースターシャー田園地域協議会（GRCC）はその名前に反してチャリティです。皆さんはその名前から地方当局と思われるかもしれませんが、それは民間セクターの組織です。皆さんはそれをNGOと考えられるかもしれませんが、そう、非政府組織なのです。それは少なくとも主な礎石の二つ、貧困の救済と教育の進歩を体現しています。それは多くの点で民間セクターの中の典型組織です。

長年の間、チャリティの設立は大義を推進したいとするグループによって活用されてきました。野生保護、遺跡建築物の保護、ナショナル・トラストは良い例です。動物保護、児童保護、障害

をもつ人たち、視覚障害者、聴覚障害者、難病患者たちと共に働く活動などもそうです。これら多くの組織は単一課題組織です。

UKには何千もの組織があります。或る組織は全国組織で地方支部を持ち、別の組織は非常に小さく、非常にローカルなものです。けれども、中には私が勤めている組織などは広範囲の問題をカバーしています。そしてその組織に委ねられた地理的位置の他の組織や機関を支援すべく活動しています。私たちはこうした組織をローカル開発機関と呼びます。なぜなら彼らはローカルなニーズを充足する仕組みを開発するため援助するからです。

私はこの話を長く続けることができますが、そのつもりはありませんのでご安心下さい。このごくごく短い紹介を次のようにいうことで終えさせて下さい。つまりグロースターシャーは人口六〇万人足らずですが、そこに二五〇〇もの民間組織があるので、これらのうち、大多数は多分専従スタッフなしです。それらはまことボランティア・民間自主的なものです。けれども、これらのうち三〇〇組織についての最近の調査結果では、全雇用スタッフは三〇〇〇人、年間財務総額は一〇〇〇万ポンドを数えます。そこでこれらの若干の組織は地方経済にかなり貢献しているといえます。

最後のひとことですが、チャリティとなれば明確な利点があります。私たちは法人税支払いの控除と地方家屋税の八〇％控除をうけます。人々は私たちにお金を寄付できます。そしてもしも彼らが私的個人としてまたは会社として税金を支払っているなら

ば、その税金を国の内国税収入庁から払い戻すよう要求できます。だから例えば二四％の税金を払っている一人の個人が税込み収入から一五〇〇ポンドを寄付するならば、私たちは内国税収入庁から一五〇〇ポンドを要求できます。すると彼の寄付は実際に六五〇〇ポンドの価値となります。

4 政府と民間セクターの公私関係の変遷

そこで政府と民間セクターの混合はいかによつてくるのでしょうか。単純な答えはありません。貧しい人々の住宅のニーズが明らかにされた場合もあります。一八世紀と一九世紀には、そして一九三〇年代まではもしも貴方が貧しくて失業しているならば、貴方は救貧院に収容されたでしょう。救貧院は地域的に、しばしば寄付によつて資金調達されました。けれども、一八九〇年代以降の一九世紀後半の間、そして確かに今日まで、いわゆる社会的住宅供給は地方政府の義務となりました。それは法制的機能となりました。しかしながら一九八一年、中央政府は公営住宅供給を排除するねらいの法律の成立とともにこれを全部改変しはじめました。住宅購入権利法は借家人が地方当局から借りている住宅またはフラットを購入するチャンスを与えました。これは保守党によつて住宅供給の公的支出を削減し、持ち家取得を増やすという計画的な動きでした。地方当局はいよいよ住宅供給者でなくなりました。しかし、人々はなお補助のある住宅を必要としたため、誰かがそれを供給しなければなりませんでした。この時期におい

て、政府機関の住宅供給会社を通じて資金によって、住宅は非営利でボランティアの運営委員会が運営する住宅供給協会の手で、供給されました。そこではなお地方当局、この場合基礎自治体デストリクトが人々に住宅供給する義務がありました。しかし、いまや地方当局の所有する住宅に住民を入居させる替わりに、地方当局は他の供給主体、他の所有者、私有地所有者または住宅供給協会いずれかと契約して入居させねばならなくなりました。相当地な変革があったのです。

この簡単な実例は長期患者や障害者あるいは高齢者にケアを結び付けている事業者の場合も同様です。全ての虚弱な人々、地域の支援を要する全ての人々についてもそうです。しかしながら、民間セクターに常に留まる活動領域もあれば、また政府による供給事業だったが、コストを削減する努力の中で益々民間セクターへ押し付けられているものもあります。教育がその例です。国はなお五歳から十八歳までの国家教育制度を通して教育を供給しています。しかし、益々学校は保護者協会を通して地域的な資金造成に依存し、企業等と連結しています。

誤解しないで欲しいのですが、私はすべてこのことが悪いと言っているわけではありません。その多くは原則的に良いのです。それはケアや住宅供給や教育、保健等の供給をより分散させ、よりローカルレベルへと戻すことを強調しています。しかし、それはこれまでやられてきたやり方であり、それは効果を生むべき資金を撤退してきたやり方であり、削減してきたやり方です。だから

多くの反対があるのです。そういうやり方は政府によって安上りの選択肢として見なされてきました。それはよりコスト効果的ではなく、サービスは結果として悪化してきました。この「安上がり」と「コスト効果的」との論争は長く続いています。民間セクターは全く余りにも度々当局の関係者によって安上りの選択肢と見なされてきました。民間セクターは安上がりではありません。人々は安上がりではありませんし、人々の提供する時間は安くないのです。

中央或いは地方の当局と民間セクターとの公私関係の講義は以上でたくさんでしょう。このことについては私はつい熱を上げてしまい、長時間にわたって話つづけることができます。でもきりがありますから、これでやめましょう。

III 田園グロースターシャーの諸問題

5 グロースターシャーの概況

別の側面、今日の私の講演の主要側面に移りましょう。田園グロースターシャーが直面している諸問題です。

皆さんに一枚の絵を比喩的に描かせて下さい。画家でないのが残念ですが……。

私が働いている県、その中で家族として住んでいるこの県はイングランドの南西部にあります。少し前に私が地方圏開発諸機関について述べたことを覚えていますか。ことし四月一日から私たちはUKにおける地方圏分権の道を追求していくことになりま

す。

スコットランドは独自議會を持ちます。ウェールズと北アイルランドは議員總會を持ちます。イングランドは二〇カ所の地方圏を持ちます。各地方圏はその経済を進める地方圏開發機關（RD A）そして所謂民間地方國會議所（VRC）を持ちます。今の段階で私はこれ以上詳しく述べたくありません。というのほもし五年後にここに戻ったときには全部変わっているでしょうから。

そこでグロースターシャーは南西イングランド圏域では最北部の県です。前に述べましたように、私たちは六〇万人足らずの人口でして、三層の地方政府制度により運営されています。県議會、六つのデイストリクト、二六一の教区もしくはタウンです。私の理解ではカウンティは日本の都道府県、デイストリクトは市町村に相当します。

二つの主要人口中心地はグロースター、非常に古い都市で二〇〇年前の非常に重要なローマ人の都市でした。もう一つはチェルトナムで、創成二〇〇年そこそこの非常に若い都市です。二〇〇年前、国王ジョージ三世が魔法の医薬的な水源地を発見して以来のことです。

二六一の教区に加えて二七のタウンがあります。これらの人口規模は二五〇〇人から一万七千人まで様々です。たまたまチェルトナムとグロースターは各々およそ一万人の人口です。だから総人口六〇万足らずのうち、二つの都市だけで二二万人が居住しており、残りは二七の市場町または四〇〇ほどの集落でもって二

三四の教区を形成しています。

グロースターシャーのUK全体に占める国内総生産は一〇五%です（要チェック！）。ここは田園県であり、一時期農業とくに牧羊は極めて重要でした。

景観に関しては、三つの際立った地域があります。東部にはコッツウォルズの石灰岩高台―世界的に有名ですが―、私たちは石灰岩を日本に輸出もしていて、コッツウォルズ村落のレブリカの造成に供しており、さらにアメリカ、オーストラリアにも輸出しています。中央部のヴェイル、セヴァーン川の谷には人がいる！この川はイングランドの最も長い川で、ウェールズの山岳地帯に源流を發し、ウェールズとコーンウォールとを分かちブリストル海峡に注いでいます。西部にはフォレスト・オブ・ディーンがあります。赤い砂礫層の、孤立した森林地帯で王室の狩猟用森林です。伝統的に樫の木が主体ですが、もちろん商業用の針葉樹も産出します。古代の鉱山業遺跡も残っています。ローマ人は鉄を採掘し、時代は下って石炭が採掘されました。それぞれ小さく、孤立して、厳しく自立する諸コミュニティから成る地域です。民間伝承や伝統は豊富です。ウェールズと境界を接しています。素晴らしい、世界の素晴らしい一部分です。私は日本からの訪問者には必ずフォレスト・オブ・ディーンにお連れします。旅行者はあなたがたをアメリカ人や、オランダ人、ドイツ人、その他この人々たちとも一緒にコッツウォルズへ案内するでしょう。もしもグロースターシャーへ来られたならば、観光バスをハイジャック

して、フォレスト・オブ・ディーンへ行けと命令して下さい。私
はあなたがたを刑務所から救い出して上げます。

我々は絶望的に孤立している訳ではありません。そうです、
我々は現実の問題を抱えてはいません——表面上は。表面上はグ
ロースターシャーは豊かなのです。

コッツウォルズの失業率は約二・五%です。フォレスト・オブ
・ディーンは多分六・五―八%の間です。何もそう絶望的ではあ
りません。表面上は。それは統計上の問題です。誰もが統計数字
を欲しがります。我々は統計数字に支配されています。人々のど
ういう統計なのか、あなたの、私のどういいう統計か？

あなたのお父さん、お祖父さん——私の義母。かれらのどうい
う統計なのか？人々は数字ではありません。人々は生きた存在で
あり、人々——人々はコミュニティの本質要素です。人々は最大
の資源であり、また最も弱い連鎖でもあります。彼らはコミュニ
ティを形成する強さでもあり、脆弱さでもあります。そして時に
は、まさに時としてですが、コミュニティに実際に最大の強さを
与えるのは、その脆弱部分なのです。私は人々とともに活動する
ことを誇りに思っています。人々には笑いあり、涙ありです。
人々は関心の要因であり、また祝福の要因です。

6 グロースターシャーの田園地域問題—人口流入

しかし、話をもとに戻せば——問題は何か？ということでは
た。

あなたがたは私が話したことを覚えていますか？——大分前の
ことで（あなたがたには、——私自身は楽しんでいますが——）、

自動車の到来が田園イングランドの人口減を齎したことを。十年
毎に国勢調査があります。一九五一年の国勢調査は田園人口の増
加を最初に示しました。小さな増加とはいえ、重要なものでし
た。それは人口減の傾向を崩すものでした。田園地方から流出す
る人々よりも流入する人々が上回ったのです。しかし——どこか
ら流入してきたのでしょうか？どのように、何故流入してきたの
でしょうか？この講演の最初の方で、英国人は心の中では土地、
田園地方を愛する農民であるといいましたが、覚えていますか？

ええ第二次大戦後起こったことは、裕福な都会の自動車所有者層
が田園地域の所有資産を買う傾向が増えるにつれて、広域都市圏
へのアクセスが一層容易になったことです。興味深いことに、最
初の帰郷者が購入し始めたのは、廃棄され、価値の下がった固定
資産といった大きな邸宅でした。次の波は、多分以前は農場労働
者の小屋を二戸、三戸を一緒に買って一戸にするというものでし
た。この過程で、平均的な英国の村落は、仮に三〇〇家屋とし
て、そのうち例えば九〇家屋は農場労働者の小屋で、各々解体さ
れて一戸となり、——結果急速に三〇〇家屋は二四〇家屋となり
ました。興味深いですね。これら流入者たちは金持ちであるとい
う事実をとってみましょう——彼らは新婚ではありません——彼
らは管理職に昇進しましたから四十代半ばとしましょう——かれ
らの子どもたちは学齢期を過ぎたか、上の私立学校生かです——

多分流入者たちはなおロンドン、プリストルまたはパーミンガミで働いています。両親は共働きである——お分かりでしょうか？

中年の世代で——居住地から離れて働いていることを。自動車——BMW——ヴォルヴォー——レクサスによって移動自由です。

彼らは村の学校、村の店舗——教会——郵便局を必要とするでしょう。どうか？いいえ——彼らは自給自足です。彼らは自立しています。だから——最初の問題は人々の移住です。彼らが銀行家として、保険セールスとして、産業者として、その他なんらかの仕事で稼いでいる町から田園風景への移住です。小屋の入り口の畜薇——葉葺きの屋根——コッツウオルズ石の「一七世紀の三つの家屋は望ましい居住場所となった」のです。

そこに一つの問題が持ち上がります——午——豚——ああ豚ども！不潔で、騒がしくて、臭くてということが、町中の連中が分け前を手に入れたこの魅力的な、田園風景の居住場所を邪魔するのです。英国人は心の中では全て農民だと言いましたっけ？訂正して下さい。我々は悪臭がなく、騒音もない、また田園の提供するものが「遅れない」限りにおいて農民なのです。このことは田園イングランドの直面する重要問題の一つです。都会の人々が今日田園地域へ持ち込んでいるライフスタイルです。それは理解できます——しかしそれは生活を非常に困難にしており、また或る意味で問題を形成しているものは、新しい田園人口が持ち込んで入る「都会的」価値なのです。

それは彼らが持ち込んでいる価値だけでなく、彼らが持ち込ま

ない付加価値もそうです。説明しましょう。

7 移住者スミス夫妻の場合

スミス夫妻はそれぞれ四八歳と四六歳で、二人の子どもたち「若いスミスたち」は県外の私立学校生徒ですが、一家は田園グロスターシャーに移ってきました。彼はロンドンのシティーの株式仲買人、彼女はインテリヤ・デザイナーで、オックスフォードの会社に勤めています。彼は毎日スインドンの鉄道駅まで二〇マイル車で行き、列車に乗ります。彼女はオックスフォードへ車で通います。彼女はオックスフォードで全部買ひ物をし、六時半頃帰宅します。彼は七時に帰宅します。夫妻は八時頃一緒に夕食をとり、時には友人たちを招きますが、実際夫妻が住んでいる村の人たちのことは本当に何も知りません。夫妻が移住してきた後、教会牧師は夫妻の所へやってきて、歓迎すると言いました。が、夫妻は「不信心」でしてと釈明しました。週末には友人たちがやってきて泊まり込むか、または夫妻で友人宅へでむきます。彼は日曜に地域の店で新聞を買い、また夫妻でぶらぶらしているときは昼食時に地域のバブで一杯やります。彼らは村落生活に貢献しません。ウイークデイは余りに疲れており、週末は「余りに忙しい」からです。

学校の休みの時期には子どもたちは家に戻りますが、退屈なものですから友達のところへ泊まりに行ってしまう。

彼らは家族として地域生活に貢献しません。唯単に田舎に住ん

でいるだけです。田舎は大変穏やかで、何といつても空気が新鮮だからです。

8 ジョーンズ夫妻の場合

このシナリオは何回も繰り返されています。が、別のシナリオもあります。ジョーンズ夫妻がそれです。彼らは現役のときは短期の休暇でグロースターシャヤを訪れることを楽しみにしてきました。彼は六五歳でバーミンガムのエンジニヤ会社を退職し、かねて望んでいたことを実現します。夫妻は退職生活のためコッツウォルズの小さな家を買います。

彼はまだ活動的です。彼女は友達が欲しくてたまらず、しかも夫がいつもいることには慣れていないのです。彼はゴルフを始め、彼女は女性協会、教会花道サークルに入り、また村落ホール運営委員会に所属します。村の農民は破産の危機に立っており、建築業者に二ヘクタールの畑を売ります。建築業者は会社幹部用の住宅を二〇戸建築する申請を出します。ジョーンズ夫妻は頭にくきました。何で自分たちの村に誰かが家を建てたいというのか、そして素敵な静かな退職生活を多くの新来者で台なしにするのか。夫妻は「ニンビーズ」（私の裏庭に建てないで）となります。夫妻は「自分たちのお城のはね橋」を建てて身構えます。

9 何が問題なのか？——若年層、貧困、高齢者をめぐって

興味深いことにこれら二〇戸の新しい家屋は村落への必要な新

住民をもたらすことができます。二〇戸—四〇人から五〇人の住民を。多分子どもたちは村の学校に通いますし、教会も新メンバーが増える等々のメリットがあります。けれどもそれら新二〇戸の住宅は地域の若者のための購入可能な供給とはならないのです。

ああ、若い人たち、若い人たちは田園地方で何をするのでしょうか？彼らは出て行きます。何もすることがない——仕事がない。多分バブ以外は娯楽もない。

すると何が問題なのか？

◆都会人は都会の期待を持って田園地域に移ってくる。価値観は同じではない。

◆田園地域に留まる都会人は、仕事を探しに遠くへ出向かなければならない。

◆田園地域に留まる余裕がない田園住民は、それゆえ手に入る住宅供給が可能な都会地域に移住する。

◆田園地域に留まる若いカップルの場合、彼は午前7時に家から働きに出掛ける。そして彼女は家に残る車がない。バスもない。二人の子どもたちはまだ小さくて学校には行かない。

孤立している。

少し前に私はグロースターシャヤは豊かで、孤立していないと言いました。けれども、もし貴方が貧しいとして、金持ちで、中

年の、中産階級が一杯増えた村に住んでいる。村には学校がない。店もバスも仕事もない。それから、たとえ最寄りのサービスと施設へは三マイルしかないとしても、貴方は孤立している。貴方が貧しいことは豊かさの化粧張りで隠されてしまう。しかしそれはなおまさに現実なんです。

そうですね。グロースターシャーには貧困があります。どのような基準でも現実の貧困が存在します。それは他のところと同じように、田園地域でも現実なのです。それではつぼつ、確実に私は貴方がたにある絵を示し始めたいと思います。その絵は旅行者の案内パンフレットとは非常に異なるものです。それはグロースターシャーに存在するようにここ日本にも多分存在する絵です。

高齢者についてはどうでしょうか。私は五年前に井岡教授が書いた論文を読んだことを思い出しますが、彼は日本の六五歳以上の人口の総人口に占める比率が一九九四年に一四%を超えたと紹介しています。日本の農村部ではどれくらいの比率でしょうか？田園グロースターシャーの一部では二五%の高さです。

このことは医療と社会福祉に非常に重い緊張を加えます。私たちは皆高齢者が長生きするよう望みますが、しかし誰がめんどうを見るのでしょうか？伝統的な家族モデルの崩壊の後をうけて。もちろん、一時期は国、政府がめんどうを見ました。が、今では政府は削減を行い、支出を減らしてきたのです——政府は大変大勢の高齢者のケアにかかる高いコストを充当する余裕がありません

ん。それなら誰がめんどうを見るのですか？もちろん、営利の医療ケアは利用可能です。営利の老人ホーム、営利の訪問看護なども。もちろん、払えるお金があればの話です。お金がなければ——どうします？

IV 民間セクターの諸活動と「村落評価」

10 民間セクターの行動

このことは、民間セクターが益々行動を起こすようになっていく背景です。高齢者や患者、その他生活上不利な状況におかれた人々を大事な外出に連れ出す、ボランティアの運転手を組織すること。家庭訪問、「よき隣人」の計画——ボランティアが必要なとき援助する——を組織すること。コミュニティ・バスの計画を組織することなど。グロースターシャーの北東部では一つのバス計画で四台、一六座席のミニバスを運営しており、週五日、六〇の村を走行し、年間一万人を運んでいます。全部ボランティアによって運営されています。

私自身の組織は、二種類の移動デイケア計画を運営し、それぞれ最大八センターで、各最大二〇人を対象にサービスしています。各センターは三〜四村落にサービスし、改造ミニバスで対象者を毎週一日村落ホールへ連れ出します。ここではゲームやハンディクラフト教室、暖かいランチ、お話しや相談などが提供されます。これは虚弱な高齢者向けのサービスです。若者や失業者はどうでしょうか？もしも貴方が失業しているとして、バスのない

村に住んでいる、そして貴方自身車がなく、移動手段がない、しかも村には仕事もないというとき、どうして求職相談をうけに行けますか、自分で探せますか？

私たちは「ジャンプスタート」という計画を立ち上げました。それは四つの側面があります。

◆もしも人々が車にアクセスしたとして、それが道路使用に適さないならば、その車を修理し、税金を払い、保険を掛けるのを助ける補助金を供給する。

◆多分彼らは仕事が見つけるとして、それは車の運転を含むもので、彼らはまだ車の免許がない。私たちは彼らが自動車学校のレッスンの支払いをするのを援助する。

◆彼らにどこで何時に最寄りのバスが運行しているか、情報を提供するほど簡単なことは多分ない。

◆最後に私たちはモベット、本田のバイクが数台あります。本田ときいて喜ばれるのでは？それを一人三カ月間、仕事につき、お金を稼ぐため貸し出します。それから自分で購入するために。

全部大変簡単な解決策です。しかし、全て民間セクターによって利用可能となっています。

一九八〇年代半ばに私たちは住宅供給協会を立ち上げました。孤立した村落で地域住民向けに賃貸住宅を数軒建てたためです。今では協会は私たちから全く独立していますが、私たちが開始し

たときはひどく要求が強かったのです。なぜなら田園グロースターシャーでは賃貸住宅を建てた者は誰もいなかったからです。私たちは住宅の需要を明確化し、調査研究し、そして充足したものですから、地域の土地所有者たちは私たちを支援してくれました。彼らは私たちを信用してくれました。なぜなら私たちは登録チャリティであり、——私たちはそこで金儲けをしようという訳ではありませんし、地方当局でもありません。ただ私たちは地域住民に入ってもらって住宅を建てようとするだけだったからです。彼らは殆ど建設用地を「与えて」くれました。実際に寄贈してくれた場合もあります。

11 住民自身の取り組みを支援して、

——その手法「村落評価」の試み

全てこのことの重要な側面は、私たちが要求を見いだし、調査研究したことです。いかに？はい、私たち自身でやったではありません。全て七五年の歴史を通して、私たちの組織は一九二三年に設立されました——私たちはコミュニティの人々とともに働くことにこだわってきました。私たちは情報を提供し、アドバイザーと援助を提供します。しかし私たちは人々のために活動しません。私たちは人々を力づける（エンパワー）のです。私たちはこのことをコミュニティ・デベロップメント、地域社会開発とよびます。それは地域住民が自分たちの要求を充足し始める技量を開発することです。そしてその過程の一部は、そのコミュニティで、

地域住民に関わる諸問題は何かを彼らが見いだすのを援助することです。

人々とその見方は重要なことを覚えてください。地域の意見聴取（コンサルテーション）、本当の意見聴取は地域で地域住民自身によって行われるのが最良です。私たちは「村落評価」という方法を利用します。そのプロセスに対し、私たちは助言し、援助することはあっても、決して私たちが行うものではありません。その手順は住民集會に始まります。私たちは問題提示はしません。そしてもしも集會が村落評価はかれらにとつて適切な意見聴取の方法だと同意すれば、——他のやり方もありますから——そのとき私たちは手順を進めるため、作業チームを形成する代表者グループを選ぶよう促します。

このグループはその後質問票を作成するため、パソコンに入力されたメニューから一連の質問を見分けます。この質問票は各世帯に人の手で配布されます。これは大変重要なことです。質問は単純回答のものもあれば、世帯の各構成員が自分の意見を記入しやすいように複数回答の場合もあります。これは非常に重要です。例えば一世帯四人ないし五人構成で、二人は両親、三人は子どもたちで、それぞれ違う意見をもっているからです。貴方はご両親と意見を同一にされますか？

最大二週間して、質問票は集められ、これも人の手ですが、データをパソコンに入れ、分析されて報告書が作成されます。

全部の手順は約六ヵ月かかります。しかし、それは地域で、住

民のため、住民によって行われます。

私はパソコンプログラムについて話しました。これは九年前、グロースターシャーの地域の大学の同僚たちと開発した、献身的なソフトウェア・プログラムです。昨年それは全面的に改訂され、ウィンドウズ用にアップデイトされました。それは一つの用具で、そのようなものとしてだけ、見なすべきです。しかし、それは手順をスピードアップするのに役立ちます。このパッケージを開発する前には、村落評価は一二ヵ月から一八ヵ月を要しました。なぜなら、主として分析段階で長い時間がかかったからです。

興味深いことに、あらかじめ決められた質問メニュー、そこから質問票が作成されるのですが、その「側面利益」は、私たちが質問それ自身だけでなく、——質問作成は非常に特殊化された技能ですが——コミュニティの間でも、一定の水準に到達することです。このことは例えば或る基礎自治体デストリクトで多くの村落評価が先達されたとき、役立ちます。——住民への調査アプローチと実際のデータ収集面ですぐれた統一性が見られるのです。さて私は村落評価について意図的に話すことに多少時間を掛けました。私は最初の方で政府の制度について述べました。つまり変化は絶えず起こっており、特に中央政府の認識には地方政府の役割についての変化が、覚えておられるならば、私は地方政府が益々「供給」よりも「助力」主体になるよう促されていると言いました。最近の中央政府通達「地方政府の近代化——人々と接触して」は、多くの違った事柄を述べています。新しい制度の選

挙、地方選挙の財政、しかしとくに今日の私たちに適切な事柄を。つまり地方政府は住民から意見聴取することを促されているのです。中央政府によって推進されている新しい観念があります——標識灯的な地方政府の地位という観念です。言い換えれば、優秀な実践の輝かしい実例だと示す地方当局は、中央政府によって上積み、権限行使上より弾力性を賦与され、もつと重要なことは高いレベルの中央財政支援が得られるのです。誰がこれに抵抗できるでしょうか？

しかしながら、据えられるべき主要礎石は、地域コミュニティが彼らの地方当局をどう考えるかを見いだす礎石です——それらのコミュニティは何が起きるのを見たいのかを。優先順位は何かを。ここでは最後にコミュニティとしてその住民の意見を表明する大変実質的な機会、そしてその人たちの意見が聞き届けられるという希望をもつことが重要です。

V エンパワーマーメントの原点——二つの例え話から

12 ヴァン・ライト市長！の仮想アンケート、成否のポイント

私は今この講演の終わりの部分において、この新しい機会に関して少しの時間集中してみたいと思います。一つ質問をしてみました。しばしば私が京都の市長だと仮定して下さい。私は日本政府から、議員及び市民から意見聴取したことを提示できるかどうか聞かれています——私が政府からもつと援助を受けられるようにするにはどう市政を運営すればいいかについて——。はい、「夢を見

続よ！——ということだと私は分かっています。しかし或る意味でこのことはイングランドの地方政府に関して生じていることです。

さて、私は或る選択をします。私は京都の市長としての役割において、質問票を作成し、あなたがた各人にそのコピーを送付します。どれだけ回収できるか、ちゃんとした回答を——これは無記名の質問票だとして記憶下さい。ええ、いくらか回収できるように——いくらかは非常に無慮なコメントが返ってくるでしょう——全体的に分析不能な！多分二五〜三〇%の有効回答は回収できるでしょう。まあ悪くはない、しかし——ならばどうなるのか？

この市長主導のやり方の代わりに、私は市レベル、区レベル、及びコミュニティ・レベルの各社会福祉協議会の会合を招集し、「もしも私たちは人々が考えているものを見つけ出せば、中央政府とうまくやれる」と言いました。もしも彼ら——人々の代表たち——あなたがたの代表たち——が「人々によって、人々のために」調査を行ったならば、どのような回答となるでしょうか？

私は誓って次のことを言えます。グロースターシャーでは村落評価に関して、我々、独立組織として地域コミュニティが自分たちで引き受けるよう励まし、回答率は平均七五〜八〇%に上ることを。はい、皆さんは正しく聞きました——七五〜八〇%ということをお！

何故か？コミュニティそれぞれ自身を取り組みを引き受けているか

からです。

地方計画を準備しているとき、グロースターシャーの或る自治体は管内全四三、〇〇〇世帯のそれぞれに質問票を送付しました。自治体当局は、四五〇〇の回収を得て喜びました——一〇〇余り超えただけなのに。何故人々は回答しないのか？多分日本では違うでしょうが、確かにイングランドでは——まことにUK全体では——人々は当局を信用しないのです！「当局が聞く耳を持たないとき、何故質問票に回答しなければならぬのか？」「私が何を言おうが変わりはないのです。当局は既に決めているのですから！」

そこで私は京都の市長としての自画像に戻ります。その質問票はより「傾聴的」だと皆さん感ずるでしょう。質問票は私のもの、或いは皆さんの代表たちによつて作成されたものでしょうか？私は皆さんにその点についての論議をおまかせします。私はもうここには帰国していませんから！！

最も偉大な資源、そして非常にしばしば最も無視されるもの、どんなコミュニケーションも、どんな田舎も有するものは、その人々です。彼らは生きた血であり、エネルギーであり、未来であります。

当局は余りにもしばしば人々を厄介者のように扱います！この町はしよつちゆう苦情をいう人たちがさいなつかつたら、どんなに素晴らしい事か？私たちは多分こういふべきでしょう——「もしも我が住民のエネルギー、熱心さを利用できるならば、どんな

に素晴らしい町となるだろう！」

私たちは時として危険を覚悟で人々をながしるにします——しかし当局がそうするのは、余りにも頻繁なのです。

13 日本の昔話の教訓

皆さんに「チミモト」——と言う人の物語りを話して終わりにしたいと思います。そうです。これは私の息子たちによく話して聞かせた日本の物語りです。「チミモト」は私の親指程のとても小さな人です。彼は海際の漁村の家に両親と一緒に住んでいます。

ある日、「チミモト」は冒険をして見ようと決心し、ご飯茶碗を船に仕立て、お箸を削つて權にし、灣のはるか彼方の対岸へ漕いで渡りました。

そこで、彼は村人誰もがこわがっている一つの村に出くわしました。とても大きな巨人をこわがっているのです。巨人は日が暮れると毎晩村にやってきて食べ物を要求します。もしも食べ物がなければ、若い女の子を誘拐し、代わりに食べてしまいます。村は食べ物がないとき、女の子たちも——皆が怖がるのは当然です。

これが「チミモト」に説明された状況でした！彼は惧れませんでした！彼は村を助けると誓いました。いま思い出して下さい。彼は私の親指程の大きさでした。しかし、勇敢な人なので、「私が助けましょう」と申し出たのです。それを聞いて皆が笑いました。「ホホホ——小さなチミモト！どうやって助けることが出来

るのかい？巨人はとても大きいし、お前は巨人の足指にも届かないくらいだよ！」

その夜、村中が家のカギを掛けて閉じこもってしまったとき、「チミモト」は刀を腰に差して、——その刀は細い縫い針より小さい——村の通りへと出て行きました。

間もなく彼は——ドシン、ドシン、ドシン、——巨人の足音を聞きました。「どこにワシの食べ物があるか！どこに巨人サイズのおさしみがあるか——巨人用の弁当箱は？」しかし辺りには何もなかったのです。

「我々はもうお前に食べ物を食べさせないぞ、巨人よ！出て行け！」と、「チミモト」は声を限りに叫びました。

「何の音かな？」「蜂のブンブン飛ぶ音かな？」と巨人は大声を上げました。「チミモト」は時間を無駄にせず、刀を抜いて、それを全力で巨人の大きな足指の柔らかい肉の部分に突き刺しました！

うなり声は雷のようでした。そして巨人が村から逃げ出す時の地面の揺れは地震のようでした——しかし、巨人は走り去り、その上教訓を学び取り、決して戻ってきませんでした！

むすび——民間セクターの役割

淑女並びに紳士の皆さん、わたくしたちは皆「チミモト」のようになることが出来ます。私たちは目的を達成するために頭と技能を使えます。巨人のようになるよりも、そして私たちの意思

をお互いに押し付けるよりも、共に相談協議し、活動しましょう。一人だけで回答を実際に持てる訳ではありません、しかし一緒にになれば持ち得るのです。

民間セクターの役割は人々を結び付け、助力し、力を引き出すことです——その日の終わりに事柄を起こし得るのは人々であり、公的セクターの役割は良く聞き、物事が起きるようにし、保証することです。

ありがとうございます。よく聞いて下さって感謝します。私の考えの幾つかを皆さんと共有出来る特権を与えて下さって、ありがとうございます。

ありがとうございます。

(終わり)

ステファン・フェルドン・ライト氏の紹介

一九四八年生まれ。

チェシャー県マックスフィールドのキングス・スクール卒業後、一九六六年ロンドンのギルドホール音楽・演劇学校入学、同校俳優資格取得、舞台マネジメント賞及び演劇賞受賞、一九六八年卒業後、全国各地のレパートリー劇場で五年間活動する。脚光を浴びて上演する生活を大いに楽しんだものの、方向転換を考えるに至った。劇場を去って以来、人々と共に働く関係のどんな仕事にとっても、舞台経験はいかに素晴らしい訓練となるか、とくに自己表現をするときに役立つことを感謝しているという。

舞台を離れて二年間、ロンドンの興行主のもとでコンサート・

マネジメントを担当した。それでも非常に楽しくやったが、自分が本場に求めているものとは思えず、やめる決心をした。

しばらくして、社会に対する環境及び田園地域問題の影響をますます痛感するに至り、大学に戻る以外に選択肢はないという結論に達した。一九七六年、サリー県ワープレズドンのメリスト・ウッド大学の園芸学一年コースに入學し、国家園芸士資格取得。

一九七七年、デボン県、ニートン・アボットのシール・ヘイン大学に進み、農学関連のマネジメント研究を専攻、学士号を取得した。卒業論文は「ダートモア断崖上のストーパー・カントリー公園造成の可能性を探る」。なお一九九四年チニルトナム・グロスター高等教育大学名誉議員に選出。

一九七八年—一九八一年 デボン自然保護トラスト主幹職員として勤務（嘱託）。

一九八一年—一九八四年 スタフォードシャー地域協議会に主幹職員として勤務。

この間、教区及びタウン議会の地域の中で果たす大きな可能性のある役割を実感する。

一九八四年—グロスターシャー田園地域協議会（GRCC）に事務局長として勤務。着任当時、財政規模は二万ポンド、職員六名。今日財政規模は六〇万ポンド、職員一九名（事業職員含む）。一九九六年（GRCCを法人化。四カ所の主要財源提供主体とサービス協定を締結、他の提供主体とも協定予定。同氏

の役割は前職と非常に一致する。即ち方針策定、マネジメント、渉外、役員会への報告等。

グロスターシャー教区及びタウン議会協会名誉書記をも担当（二六一のうち二二三会員、一九八四年時は二五九のうち一六二会員）

その他次のような役職を歴任。「南西パートナーシップ地域再生」（CRISP）設立理事、「グロスターシャー訓練・企業協議会」事務局長、「グロスターシャー地域職業農場ビジネス」会員、「グロスターシャー田園住宅供給協会」元設立理事、「ユース先会社・同頭脳労働センター」（重慶・重複障害者訓練事業）設立議長、「グロスターシャー県地域財団」設立理事、「グロスターシャー技術援助サービス」（実行性ある研究を生み出すため、地域グループに技術的専門知識を提供、デボンにも波及）設立理事等。

グロスターシャー田園地域協議会 (GRCC) について

1 歴史

一九二三年、イングランドで三番目の田園地域協議会（RCC）として設立（最初のRCCは一九二二年オックスフォードシャー、ケントに設立）。一九九八年七五周年を迎えた。

2 性格・目的

民間自主組織。従来からの登録チャリティに加え、一九九六年

英国地域福祉講演会・田園グロスターシャーの問題と民間セクターの役割

英国地域福祉講演会・田園グロースターシャーの問題と民間セクターの役割

チャリティ有限保証会社として法人化。目的は「田園地域社会開発を推進・支援し、田園地域の住民——とくに不利益を体験している人々——が公共施設やサービスへの適切なアクセスを確保できるように支援すること」にある。

3 組織・役割

本質的に地域社会開発機関。一六人構成の評議会により運営する。事務局長と職員チーム及びボランティアたちは組織の事業を日々遂行する（スタッフ一九名）。デスクリクトを基盤とするフィールドワーカー・チームは田園地域において種々の問題とプロジェクトに関して取り組みを進めている（移送、住宅供給、コミュニティケアへの民間的支援、子どもたちや家族との活動、経済問題等々）。またカウンティ全域で村落ホール運営・建設への相談サービスを提供するとともに、タウン及び教区議会グロースターシャー協会の事務局を担う。住宅供給協会立ち上げや村落評価のソフト開発を始めとする、開拓的諸活動は全国的に高い評価を得ている。

4 パートナリシップ

G R C Cは全国のカウンティ・レベルに設置された三八カ所のR C Cの一つで、R C Cネットワークとその全国組織「エーカー」(A C R E、グロースターシャー内に所在)との連携のもとに活動する。また他の多種多様な組織とも連携している(全国レベルの田園開発委員会R D C、各地方レベルの政府、ボランティア・ビューローを含む民間組織)。

5 草の根の接合

G R C Cはカウンティ領域の組織だが、地域的に(ローカリー)活動し、地方圏域または全国レベルでの対議会工事を要する事柄、他方で支援と情報を地域的にインプットする事柄を明確化するため共に活動する草の根との接合にこそ、組織の強みがある。

6 委員会

財政・総務委員会、チェルトナム・グロースター田園率先活動基金、郷土史、ノースコッツウオールド移動プロジェクト、サウスコッツウオールド移動ディケアセンター・プロジェクト、チユークスベリー地域移動ディケア、の七委員会を運営。

7 財政

一九九八年度収入総額約四六万余ポンド、うち三五万ポンドは補助金・プロジェクト助成。主要資金源はR D C、県、デリストリクト、トラスト・財団等。